

全国中国語教育協議会

ニューズレター

第9号

1998年12月8日発行

1年間の活動を総括し、新しい展開をはかる 会員の積極的な参加で、より大きな成果を

全国中国語教育協議会が発足して、1年が過ぎた。準備会の段階で好評を得た教員研修(セミナー)を継続し、会報(ニューズ・レター)も計5回(別に号外1回)の発行ができたが、3月に開催された第1回理事会での決定を十分に生かしきれないまま、過ぎた感じがする。多数の会員が活動に参加できる方策、研究授業を含め研修の多様化など、事務局に与えられた課題のうち、実現にこぎつけたものは僅かである。それらのうち「試験問題」に関する検討は、夏のセミナーで討論の糸口だけはつけた。交流会は「借花献佛」のきらいはあるものの、中国大使館教育処の要請による「漢語教師联谊会」で、懇親の面だけは果たせた。実は前号で、理事会決定にもとづく事務局活動方針を次号掲載としたところだが、考えてみると、すでに1年が過ぎ去ろうとする現在、むしろ1年間の総括の上に、今後の見通しを明らかにすべきだと認め、本号は関係記事の特集を組むこととした。

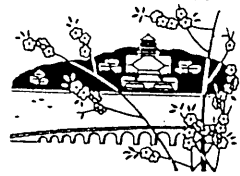
理事会の決定により、本協議会の研究大会と会員総会は隔年に開くこととなっている。去る10月の日本中国語学会の前後に、前年までと同様に協議会も大会を開催しないのか、というお問い合わせがあった。大会は99年度の開催だが、具体的な日程は明春の理事会を経て告知する予定である。したがって、本号では総会に代え、会の現況と会計の報告を掲載することとした。また、活動報告として教員研修(セミナー)の実施状況を一覧表にまとめた。来年度に刊行予定の研究論集の原稿募集は、締め切りを若干遅らせるが、引き続き会員の投稿を待望している。99年度セミナーのご案内は、次号(2月末~3月初の発行を予定)に掲載するが、新しい試みとして、事前に会報で問題を提起し、各参加者の主張や疑問の提出後に、講師がそれらを集約する形で講述する方式を取り入れたいと思っている。

会費納入のお願い

本会の経費は年度会費2000円と有志の寄付によっています。今年度分はすでに多数の方からお振り込みいただいておりますが、まだ納入のない方には、今回も用紙を同封してご請求申し上げますので、ぜひ早めに納入をお願いいたします。入れ違いに納入済みの場合はお許しください。なお寄付金も大歓迎です。

事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部中国文学研究室内
全国中国語教育協議会
郵便振替口座 00120-0-364168
(会費・寄付金振込にご利用下さい)
なお、お問い合わせ・ご連絡等は、
お手数でも郵便でお願いいたします。



「'98現代漢語文法学国際会議」に参加して

佐藤富士雄（中央大学）

北京大学が創立100周年を記念して企画した表記の学術会議は、本年8月26日から28日までの3日間にわたって、キャンパスに隣接する「達園賓館」を会場に、盛大に開催された。また、引き続き同じ会場を使って、29日から31日までの3日間、「第6回現代漢語文法学術研究・討論会」が開催された。

主催者側の発表によると、全期間を通じた参加者（＝報告者）は、中国国内からが約140名、香港、マカオ、台湾および海外各地からが60名、傍聴者が40名、合計約220名とのことであった。また日本からの参加者は、筆者の知る範囲でも、中国出身者を含めて17名に上った。

地元北京以外からの参加者の多くは、到着手続きの後、割り当てられたホテル内の各部屋に宿泊し、中庭を隔てた食堂で3度の食事を取りながら、連日の会議に参加した。

初日の26日は、午前8時半から開会式が行われ、続いて参加者全員が3台のバスに分乗して、新築成った北京大学新図書館前に移動して記念撮影を行い、再び会場に戻って1時間半にわたる記念講演会に参加した。演題と報告者はそれぞれ、「漢語文法研究が直面する挑戦」陸俊明氏、「0役割名詞(題元)の用途」徐烈炯氏、「認知と文法」沈家煊氏で、いずれも現在の文法研究の最先端の状況を、全体的な立場から、生成文法の立場から、そして認知文法の立場から紹介する、興味深い内容の講演であった。初日の午後から3日目の午前までは、ホテル内の4つの会議室を使った分科会が開催され、午前、午後とも3時間で6人、4つの分科会で合計24名の報告者が報告を行い、極めて活発で真剣な討論が行われた。日本からの参加者も、筆者を含めて全員がいずれかの分科会で報告を行った。

最終日の午後は全体会議に戻り、アメリカから参加した屈承熹氏が「漢語機能文法卑見」という題で、南開大学の馬慶株氏が「語義表現と結びつけた文法研究」という題で、それぞれ報告を行った。続いて各分科会の主催者が、3日間にわたる報告と討論の内容を整理して紹介し、最後に北京大学関係者に対する感謝の拍手の中で、会議の幕を閉じた。

後半の会議も同様の形態で開催されたが、報告者の大半が若手の研究者であったせいか、連絡なしに欠席する報告者が続出し、主催者は順序の繰り上げ等、対応に追われた。後半最終日の全体会議には、輿水優氏が学生引率の合間を縫って駆けつけ、「時間量成分の位置の問題について」の題で報告を行った。

両会議の運営は実質的に、陸俊明氏以下北京大学の数名の専任教員と10名弱の大学院生の献身的な努力によって支えられ、参加者の募集、論文とレジュメの募集と印刷、宿舎の手配、会議の進行など、膨大な量の仕事を見事にこなして、100周年記念にふさわしい内容豊かなシンポジウムを実現していた。

筆者は今回初めてこのような形式の会議に参加したが、活字の上で名前を知るだけだった多くの著名な学者の話の間近で聴き、挨拶を交わし、食事を共にすることができたのは大きな収穫であったし、研究の成果を中国語で発表することの重要性を、改めて認識する貴重な機会ともなった。

なお、次の「現代中国語文法学国際学術会議」は、2001年の春節に香港で開催される予定である。

全国中国語教育協議会現況報告(1998年11月30日)

98年は年次大会・会員総会の機会がないため、本紙上で協議会の現況を公表する。
会計関係の正式報告は所定の会計監査を経て、明春予定の理事会で審議後に行う。

1 会務報告 11月30日現在の会員数は220名(注:そのうち転居先不明が2名)である。

会費納入状況は、納入済166名、未納者54名で納入率は75%、ちなみに前年度分の未納者が、なお6名となっている。寄付金は4件、計17,000円(1万+3千+3千+1千)であった。

2 収支報告 前回報告(98年3月27日現在でニュース・レター第6号に掲載)後の収支。

〔収入〕

会費 336,000 (98年分166名、97年分2名の合計額) + 寄付金 17,000 (4件)

合計 353,000 これに、前回報告時の残金 163,787を加え、総計516,787 (円)

〔支出〕

切手・葉書 103,620 (支出月日 4/12, 5/6, 6/27, 11/16)

事務用品 12,442 (支出月日 4/12, 4/20, 11/11)

事務幹事手当 40,000 (支出月日 4/18, 9/9)

合計 156,062 (他に12月以降セミナー関係決算後に補填のため支出発生予定)

残高 360,725 (516,787 - 156,062)

〔注:セミナー関係収入382,000、支出412,385(12月支出予定含む)、不足30,385〕

3 活動報告

実施日	講師	題目と内容	参加者
(1)月例セミナー			
4月4日(土)	孫 玄齡	中国語の話し方 ――発音のポイントを探る 〔昨夏のセミナーにおける語調のお話を深めて〕	16名
4月11日(土)	輿水 優	初級中国語文法の教え方――なにを教えるか(1)	(1)(2)
5月9日(土)	輿水 優	初級中国語文法の教え方――なにを教えるか(2) 〔文法をスリムに。教え過ぎに気をつけよう〕	延べ 計45名
6月6日(土)	輿水 優	初級中国語文法の教え方――どのように教えるか(1)	(1)(2)
7月11日(土)	輿水 優	初級中国語文法の教え方――どのように教えるか(2) 〔体系を把握し、具体的、簡明に文法を説くこと〕	延べ 計45名
10月17日(土)	孫 玄齡	中国語発音教育の経験から 〔日本人学生の困難点を指摘し、実地にテープ診断〕	11名
11月14日(土)	山田眞一	基礎段階のガイドライン(語彙編) 〔各種語彙集やテキストから基礎1千語を選ぶ〕	11名
12月12日(土)	古川 裕	基礎段階のガイドライン(語法編)	予15名
(2)夏季セミナー			
7月30日(木)	渡邊晴夫 武信 彰	外国語の評価とテスト――英語と中国語の場合 中国語試験問題の作り方――良問・悪問	17名
(3)その他	5月8日(金)に中国大使館教育処で「漢語教師联谊会」を開催		約50名

縮切り変更

中国語教育協議会 会報・研究論集 原稿募集

中国語教育協議会では、下記の要領で会員の積極的な投稿を歓迎いたします。特に、99年度内に刊行予定の「研究論集」には、委嘱論文以外に、投稿による論文(有審査)も掲載しますので、下記Ⅱの要項により論文を奮ってお寄せください(当初の縮切りを変更)。

I 会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む)

③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④私の読んだ本(外国語教育の分野で、紹介・書評とも) ⑤その他、会報にふさわしい内容の原稿。

1編1千字以内。ワープロ使用を原則とし、手書きの場合は400字詰め原稿用紙使用。縮切りは特に設けない。採否は事務局一任とし、随時掲載。原稿は返却しない。

Ⅱ 研究論集収録原稿 ①中国語の教授法、教育内容、教育方法等に関し、実践的な内容を含むもの

②辞書・教材等に対する具体的な意見・主張 ③基礎文法項目・基礎語彙表の作成および批判 ④試験問題と学力評価に関し、具体的な内容を含むもの

⑤中国語教育に関する書評、読書ノート ⑥その他、実地の体験に基づく実践的研究。

個別の文法事象や語彙等の語学的研究は対象としない。必ず1行20字づめで、400行以内(400字原稿用紙20枚に相当、図表含む)。原稿は必ずワープロ使用。縮切りは当初の予定を変更し1999年2月末日(当日必着)とする。原稿2部に400字以内の要旨1部を添え事務局に郵送のこと。理事による審査員が採否を決定。刊行時期は99年度内の予定。原稿は返却しない。なお、お問い合わせは郵便で事務局へお願いいたします。

★ 中国語教育・情報ファイル ★

《新華字典》の98年修訂本が出た。前回の92年版を全面的に改訂し、その範囲は1/3に及ぶという。以前版元の商務印書館編集部で、「小さな改訂では版数を変えず第〜次印刷と記すだけだが、1/3以上の改訂に及ぶと新しい版になる」と聞いたことがある。今夏、北京で言語文字工作委員会に漢字の総責任者である傅永和氏を訪ねた際、現在中国で生きている(通用の)漢字は2万字強(《新華字典》は1万字強)で、その範囲は簡化偏旁の応用可との話。もと文字改革委の言語文字工作委では語文出版社の《現代漢語規範字典》を規範としている由。

◆◆◆ 活動ニュース ◆◆◆ 98年の教員研修(セミナー)も、12月の「語法ガイドライン」(講師・古川裕氏)をのこすだけとなった(12月12日)。夏季セミナー以外に、月例会も軌道に乗せることができた。しかし、参加者数はp.3に示すように、盛会とはいえない状況である。予告に詳しい講義内容を加えるとか、会員外へのPRを検討する、といった改善策がある。経費面では独立採算とし、会費からは赤字の補填程度にしたい。とすれば参加費の値下げは不可能、来年このまま続けて対応を考えたい。東京以外の開催は経費の問題をクリアできれば、今後ぜひ実現したい。

◆◆◆ 活動ニュース ◆◆◆ 明99年のセミナーは今年と同様に、4〜7月と10〜12月の各第二土曜日に月例会を実施、夏季セミナーも例年通りとしたいが、年次大会の時期や会場の都合を確かめ、形式・内容を検討した上、次号会報で日程を発表する予定である。ご意見やご希望を事務局にお寄せいただきたい。